

明るい社会と未来のために

小出 瑠那

私は、昔から人見知りであいさつなどもあるまりできませんでした。でも私の学校は、
「あいさつ運動」などの活動がありました。
けれど私は、あいさつはとてもはづかしいと
思っていたし、なぜあいさつがあるのかよく
分かりませんでした。

私がお母さんと散歩をしてるとき、地域の
方が、「こんにちは。」とあいさつをしてくれま

した。が私は、なにも言わずお母さんは、笑顔で
「こんにちは。」と言っていました。お母さん
になんぞあいさつをしないの。」と聞かれた
とき私は、「はづかしいからやりたくない。」と
言っていた。お母さんは、「あいさつはみんな
を笑顔にして、明るく元気になれる優しい言
葉なんだよ。」と教えてくれました。そこが、あ
自分からあいさつをしようと思いましたがあ
まり勇気がでなくてまたあいさつするのをあ
きらめてしまっていたとき、私は習い事をや

リはじめました。習い事とはテニスで、その
チームでは、コミュニケーションを大切にし
ていて、保護者の方と会ったかならずあい
さつをして試合をやるときは、始めと終りに
「お願いします」と「ありがとうございます
た」負けてどれだけか「やしか」たり、イライ
ラしていてもこのあいさつや感謝の気持ち
絶対にあすれてはいけないということをコ
チから聞いてたし、かにそうだなと思っ
たし、感謝の気持ちやあいさつをするだけ
でどれだ

け、いい気持ちになるのか、笑顔が増えるのか
この機会ですごく実感することかできました。
そこかしこ私はあいさつや感謝の気持ちを絶
対にやすべしにしようと思いましたがその時
に考えたことがあります。あいさつをするだ
けではなくて学校にある、なめこだあいさつ
を心がけようと思いました。なは名前を言っ
て、めは目を見て、こはバをこめて、だはだ
れにでも私はこの4つをバがけようと思いま
した。それたかも。とみんなが笑顔にな

たと思いました。そして私は、も年生の中が
 ぶんぶんはれるあいさつ運動などで活やくする
 レンジャーという人たちに選ばれました。私
 は小学二年生のときかかなりたけたけど私
 みたいなあいさつができない人じゃむりだろ
 うなと思っ、ていたけど人見知りをこく服して
 あいさつができるように、みんなにあいさつ
 ができるように努力していた時間はむだでは
 なかったんだなと感じてここまでやってきて
 よかったなと思いました。

あいさつはみんなを笑顔にして、このまま
 あいさつがづいていけば、明るい社会と未
 来が見えると思いましたが、日本がもっと明
 るくなるのをまっ、ていたいと思いました。